

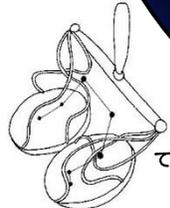
# 月刊 星空の散歩道 6月号

2024年

6月上旬 21時ごろ  
6月下旬 20時ごろの空  
ステラナビゲータ/  
株式会社アストローツ



月や惑星・星座を  
探してみよう!



## 6月の星空

### ☆宵空の主な星座と明るい星☆

西の空と南の空に春の星座が、東の空に夏の星座が見えています。

- < 西 > しし座 (レグルス、デネボラ)
- < 天頂 > うしかい座 (アルクトゥルス)
- < 南 > おとめ座 (スピカ)、さそり座 (アンタレス)
- < 東 > こと座 (ベガ)、わし座 (アルタイル)、はくちょう座 (デネブ)
- < 北 > 北極星、おおぐま座

### ☆天文トピック☆

6月20日 月とアンタレスが接近

月のすぐ近くにアンタレスが見えます。日没直前にアンタレス食(月がアンタレスを隠す現象)も起こりますが、空は明るいため、観察は難しいでしょう。

6月21日 夏至

北半球では1年の中で最も昼の時間が長い日。

### ☆月の形の変化☆

- 6月6日 新月
- 6月14日 上弦
- 6月22日 満月
- 6月29日 下弦

### ☆6月の惑星☆

土星…夜明け前、南東の空 / 火星…夜明け前、東の空

## <天文コラム> 『伝統的七夕』とは…

『七夕』といえば7月7日。ただ、多くの地域で梅雨の時期にあたり、星にちなんだ行事には向かない気もします。元々、七夕の行事は旧暦の7月7日に行われていました。旧暦とは月の形を元に作られた暦で、現在は使われていません。そこで毎年、国立天文台が旧暦の七夕に近い日として、次のように定義された『伝統的七夕の日』を発表しています。

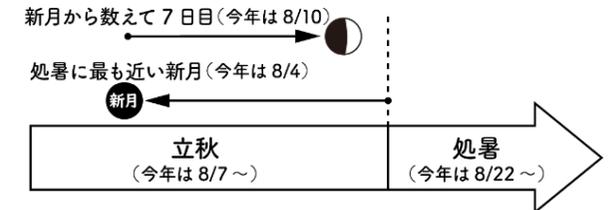
『二十四節気の「処暑」を含む日か、それよりも前で、処暑に最も近い、新月の瞬間を含む日から数えて7日目』

二十四節気は、1年の季節の移り変わりを24に分けて表す言葉です。『処暑』は厳しい暑さが峠を越す頃という意味で、『立秋』の次の節気にあたります。伝統的七夕は『立秋』から『処暑』の間であり、七夕は本来、秋の行事だったというわけです。

### 2024年の『伝統的七夕』

今年の伝統的七夕は8月

10日。この日には、必ず半月(上弦)前の船のような形の月が昇ります。この月を昔の人は織姫と彦星を乗せる天の川の渡し舟に見立てていたそうです。



伊丹市立こども文化科学館 発行日 2024年5月20日

〒664-0839 兵庫県伊丹市桑津3丁目1-36 TEL: (072) 784-1222

HP: <http://business4.plala.or.jp/kodomo/>

